【研究報告（2018 年度）】

チーム③　中高年期の社会活動支援・活力ある高齢者の研究チーム（③-2）
産学官連携による高齢者活動広域的サポート事業の開発

馬場みちえ*1)、宮林郁子 1)、吉川千鶴子 1)、宗正みゆき 1)、牧香里 1)、石橋曜子 1)
1）福岡大学医学部看護学科、*）責任者

要　　旨

2017 年から引き続き 2018 年度も全社展開として高齢者サポートに向けたコミュニケーションスキル研修を実施した。2018 年度 80 名であってもコミュニケーション自己評価で最初 3.48 点であったが、最後には 3.99 点と有意な差を持って高くなっていた（P<0.05）。2 年間を通して「コミュニケーションスキル向上をめざした教育プログラム」の有効性が示唆された。検針員が得たスキルを継続できるか、高齢者との場面で活用できるかどうかが、今後の課題である。2019 年 6 月より、早良区田隈校区にて高齢者サポートを住民ボランティアとともに実施が予定されている。今後、産学官と住民との協働で検針員の高齢者サポートへ認識や行動の変化について評価していきたい。

１．緒　言

本研究の目的は、大学と地域企業及び自治体との連携による高齢者の社会参加促進と見守りなど広域的に高齢者サポートに向けたコミュニケーションスキル研修を実施し、実際の行動可能性について調整、検討することである。

２．方　法

１）事業実施

(1)西部ガスとのコミュニケーションスキル研修

平成 30 年 1 月～29 年 11 月まで全社展開としてコミュニケーション研修を実施した。

表１　平成 30 年度スケジュール

	1月	3月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月～3月
全社展開	講演会	第2回研修		第3回研修		第4回研修	第5回ふれあいサロン		第6回研修	早良区田隈校区高齢者サポート準備
高齢者サポート	社協		準備・打ち合わせ →							
		福岡市高齢社会部、保健福祉センター、福岡市社会福祉協議会、民生委員、自治会協議会、サロン代表者、住民、検針員代表、西部ガス・CS、福大の打ち合わせ								

(2)高齢者サポートに向けた準備

平成 30 年 7 月から福岡市社会福祉協議会および福岡市との協議を開始した。早良区社会福祉協議会の協力を受け、12 月に産学で打ち合わせを行った。早良区「田隈校区」が平成 31 年 1 月に産学官と「田隈校区」住民リーダーと協議を行い、6 月頃から開始の予定となった。それに向けて企業内の準備、住民への案内、打ち合わせなど実施していくこととなった。

３．研究結果

１）アンケート調査実施

(1)　見守りネットワーク冊子（テキスト）の作成と評価

平成 30 年 6 月に企業検針員に配布・説明した。必要なことが入っており、わかりやすいと 97%の検診員が回答した。また異常の発見時に役立つと 7 割が回答していた。

(2)　高齢者ふれあいサロンに企業社員が参加することへの評価（高齢者側からの意見）

平成 30 年 9 月～10 月に 12 か所の高齢者ふれあいサロンにてアンケートを実施した。9 割以上の高齢者は企業社員の地域への参加に好意的であった。

(3)第3回目コミュニケーションスキル検針員向けアンケートの実施

平成30年12月に研修介入群と非介入群に向けてアンケート調査を実施しており、現在アンケート回収中である。

2）2018年度コミュニケーションスキル研修の評価

毎回の研修でコミュニケーションスキルについて検針員にアンケートを実施し、図２に示した。1回目は3.48点と低かったが、6回目の11月では3.99点と有意に高くなっていた（P<0.05）。

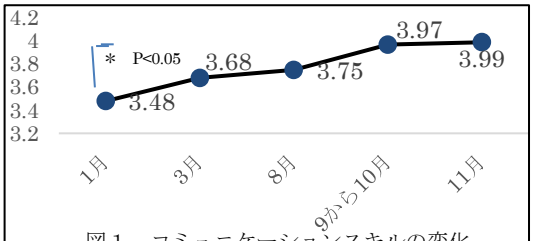

図１　コミュニケーションスキルの変化

４．考　察

昨年から引き続き、看護の知を生かして、地域をベースに働く検針員を対象に、高齢者ケアサポートに実現に向けてコミュニケーション教育プログラムを開発、実施、評価した。

昨年と同様、コミュニケーションスキルは介入前より高くなった。これは、相手の話を意図的に聴くという態度や姿勢がとれるようなったことを示している。私たちの教育プログラムが有効であることが明らかとなった。高齢者サポートできる場の調整が進んでいるため、産学官と合わせた住民との協働を模索していきたい。

５．結　論

2年連続してコミュニケ―ションスキル研修を実施したことでその教育プログラムは有効であった。検針員が得たスキルを継続できるか、高齢者との場面で活用できるかどうか、今後の課題である。2019年6月より、早良区田隈校区にて実施予定である。そこでの検針員の認識や実際の行動が変化について評価していくことが重要である。

６．研究発表

学会発表

(1) 牧香里、馬場みちえ、吉川千鶴子、宗正みゆき、石橋曜子、大城知子、上野珠未、宮林郁子：産学官連携による高齢者社会参加促進のための広域的サポート事業の開発―地域の高齢者を見守るための事業所向けた教育教材の作成―.第44回日本看護研究学会　2018年8月

(2)馬場みちえ、宮林郁子、吉川千鶴子、宗正みゆき、石橋曜子、牧香里： 地域包括ケアシステムをめざした産学官連携による地域高齢者ケアサポートの展開（第2期）.第38回日本看護科学学会　2018年12月

(3)Y.Ishibashi, I.Miyabayashi, M.Baba, C.Yoshikawa, M.Munemasa, K.Maki：The Effects of a “Communication Skills Improvement Program” for the care Activities for Older Adults Community Meter Readers of Private Companies. Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing(STTI)2019.2

(4) I.Miyabayashi, Y.Ishibashi, M.Baba, C.Yoshikawa, M.Munemasa,K.Maki：Development of an Educational Program to Provide Multi-layered Organic Support for the Elderly in Japan’s Community-based Integrated Care System. Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing(STTI) 2019.2

シンポジウム・講演

(5) I.Miyabayashi, Y.Ishibashi, M.Baba, C.Yoshikawa, M.Munemasa,K.Maki：Challenge for Social Contribution towards Regional Elderly.Fukusou project international symposium. 2018.12

(6) 馬場みちえ、宮林郁子、吉川千鶴子、宗正みゆき、牧香里、石橋曜子：企業による新しい地域社会への社会貢献創出.福岡大学新春産学官技術交流会2019.　2019年1月

展示・新聞掲載

(7)イノベーションジャパン(東京)展示「企業がおこなう地域への新たな社会貢献の創出」パンフレット　2018年8月

(8)ガスエネルギー新聞掲載　「検針員が高齢者見守り―福岡大のプログラム活用　西部ガス・カスタマーサービス」2019年1月21日号